

厚沢部町立学校適正配置計画

平成28年2月

厚沢部町教育委員会

1. 小・中学校の適正規模・適正配置

学校規模の適正化を図る上では、第一に学校の果たす役割を再確認する必要があります。学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を十全に行うためには、一定規模の児童生徒集団が確保されていることが望ましいものと考えられます。

文部科学省が示す公立小・中学校の統廃合に関する基準では、各市町村において、それぞれの地域の実情に応じて、教育的な視点から少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策を継続的に検討・実施していくことが求められています。

これまで長い歴史と伝統をもち地域とともに歩んできた学校は、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っており、学校統合を検討することは、様々な要素が絡む極めて困難な課題ですが、児童生徒の教育条件の改善を最優先に見据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するためには、避けることのできない重要な課題となっております。

このような状況の中、教育委員会では保護者や地域住民と共通理解を図りながら、学校統合の適否について検討を重ねてきました。これまで数回にわたる意見交換会及び住民説明会でいただいた貴重なご意見等を踏まえ、学校統合を進めていくことについてご理解をいただいたとの認識のもと、「厚沢部町立学校適正配置計画」を策定いたしました。

2. 小規模学校のメリット・デメリット

一般的に小規模学校では、次のようなメリット・デメリットがあるといわれています。

メリット

- ・教師が一人ひとりの特性を把握しやすく、きめ細かな指導ができる。
- ・子どもの個性や課題について共通理解を図りながら学校運営ができる。
- ・学校・地域が連携した活動を行いやすい。
- ・児童生徒数に比べて、施設・設備が恵まれている。

デメリット

- ・子ども同士で高め合おう、学び合おうとする気持ちが薄れやすい。
- ・学校行事・集団活動で制約を受けることが多い。
- ・社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- ・複式学級での指導や複数教科分の研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい。

3. 統合にあたっての基本的配慮

- ・いずれの学校も小規模校であり、さらには複式学級が生じている学校もあることや通学が遠距離となる現状等を鑑み、児童生徒や保護者の大きな不安と負担にならないよう地域や保護者のご意見に十分配慮して進めていく必要があります。

4. 基本方針と具体的計画

- 基本方針

- 町内の極小規模・過小規模化が避けられない小学校及び中学校については、学級数及び児童生徒数の推移を考慮しながら統廃合を検討していきます。

- 短期計画

- 美和小学校は、平成 29 年 3 月 31 日をもって閉校し、平成 29 年 4 月より厚沢部小学校へ統合することを目指します。

- 鶉小学校及び館小学校は当面、現状のまま配置します。

- 鶉中学校及び館中学校は、生徒数及び複式学級の形態を考慮し、町内 3 中学校の統合再編に着手します。統合時期は、平成 30 年 3 月 31 日をもって閉校し、平成 30 年 4 月より新統合校の開設を目指します。

- 中・長期計画

- 完全複式校及び 3 学級以上を維持できない見込みとなる学校については、学級数及び児童数を勘案しながら統合の必要性について検討します。